
宇宙の中身

gentous

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

宇宙の前身

【Nコード】

N3649I

【作者名】

gentous

【あらすじ】

わたしはかれに、なりたい。

カチカチ。

それは世の中に溢れている音である。

マウスを、携帯電話を。

1日の大半を非人間に視線を注ぐ。
この世の中、文字が支配している。

休憩室には彼と私。

あれだけ『画面』を見ているのにも関わらず、彼と私は各々個人の
『画面』を無表情で見つめる。

「裕子ちゃんは休みの日は何する？」

静寂の中の低い男の声に少しどきりとした。

「自分探しですね。」

私は態と曖昧に答えるのが好きだ。

彼はにつこり笑うと俺も、と答えた。

彼は本を取り出す。

そして私など初めからいなかったかのように読むのだ。

私はそんな彼に少し寂しく思いながらも再び携帯電話を目的もなく

弄る。

「時間だ。」

読んでいた本を閉じ部屋を出ていく。

本は机の上に置かれたまま。

毎回そうだ。

彼は知っている。

私が彼の本が気になることも、彼が好きなことも。

無造作に置かれたそれを手にとる。

『宇宙の中身』

薄い。

しかし読み込まれた本であった。

宇宙の中身。

それは何であろうか。

「裕子ちゃん。」

身体がびくつと反応して顔を上げた。

彼は深くため息をつくと元居た椅子に座る、私の目の前に。

「ねえ君は俺が好きなんだろ。」

探るような、落ち着いた目をしていた。

私はにっこり笑う。

「私は、貴方になりたいんです。」

「君は俺にはなれないよ。でもこつしよつ、僕らは僕らを共有しよう。」

こうして私は彼を手に入れた。

彼の好きな音楽を聴き、彼の好きな本を読み、彼の家に住む。
しかし私は『宇宙の中身』だけは読まない。

金木犀の香りがする。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3649i/>

宇宙の中身

2010年10月8日15時15分発行